



# 宝酒造・田んぼの学校 田植え編



日 時 2019年5月12日（日）  
 場 所 南丹市園部町仁江  
 天 候 晴れ  
 参加者 80名弱 スタッフ18名

昨年はお天気が荒れましたが、今年は暑いぐらいの好天となりました。私の記憶では、田植えは梅雨時にするもの、との刷り込みがあるのですが、近年は田植えが早まって、大型連休頃に行われるところが多いようです。

田植えが早まって、見られなくなったものがレンゲ畑（正式にはゲンゲらしいですが）です。緑肥を使うまで待ってられない、と言うところでしょうか。先日、所用のため京阪電車で大阪に参りましたが、6月に代掻きをしている田がありました。まさに梅雨時分の田植えになるようです。絶滅危惧種です。閑話休題、5月12日の本番に向けて下見をしたのは4月27日です。約2週間後の当日と、下見とでは、植物の様子が大きく違っていました。（鳥や虫は変わっているとは思いますが具体的にはよくわかりません）

下見の際に6種類見られたスマレの仲間の花（ツボスマレ、ヒスマレ、好ツボスマレ、ノジスマレ、シイスマレ、カガバ好ツボスマレ）は何も見られなくなっていました。ただし、正確に言えば、シイスマレとカガバ好ツボスマレは下見の際に、里山観察地をさらに奥へ進んで見かけたものですから、当日のフィールドでは4種類です。春は季節の移ろいが早い、と感じました。

タンポポの笛を吹き、シキミやカキドオシ、ドクダミの匂いをかぎ、サンショウの出来立ての実をかじったり、葉の匂いをかいだりしながらコースを進みました。子どもはやはり動く物、虫やカエルやアメンボに興味を持ちますがあいにく大きな網もなく、水辺の生き物は殆ど採取することはできませんでした。しかし、小川（？）をのぞき込みながら楽しく観察をすることができたようです。もちろん下見の際に水田の端っこで見かけた、サンショウウオかもしれない卵は、もう跡形もありませんでした。

この日も子どもたちが一番楽しんだ場所は、下見の時にはツボスマレが咲き誇っていたあの水田跡です。クモの毛だ



トゲトゲ、ねちゃねちゃ、にがーい動かない植物の知恵を五感で感じます



午後からは田植えです



ノジスマレ

らけの体やカナヘビの心臓が動くのを虫眼鏡で観察したり、脱皮しそこなったヤゴを眺めたりできました。こちらが質問を受けるだけにして、しばらく自分で見る、探す、触る活動をしてもらいました。

楽しみすぎて里山での観察が時間不足になってしまいました。例のクマの罠まで進んだ時点で、引き返す時間を超えていました。

今回は、春の野山での観察会でしたが、引き続きあと二回とも参加してほしい、と願っています。

(羽田)

コガネグモ



カラスザンショウの木肌



ツバメシシミ♀



カワトンボ



ニガナ



シオヤトンボ♂



ウマノアシガタ



ミズタバコ